

第11回 若手・中堅職員養成塾



日時：平成26年1月29日（火） 午後5時30分～午後8時

ゲストスピーカー：特定非営利活動法人愛伝舎 代表 坂本久海子 氏
有限会社二軒茶屋餅角犀本店
代表取締役社長 鈴木成宗 氏

ファシリテーター：株式会社フューチャーセッションズ 芝池玲奈 氏

テーマ「新しい三重づくりのための政策イノベーションを考える」

目的

これまでの政策創造員会議における若手・中堅職員養成塾や調査・研究活動、日常の業務の中での「気づき」を「行動」につなげるため、多様な参加者同士の対話により協調的なアクションを生み出すフューチャーセッション形式での議論を通じて、若手・中堅職員のスイッチを入れる。

加えて、創造的なアイデアを創出するための新しい手法としてのフューチャーセッションを体験することで、日常業務における課題解決の手法を習得させるとともに、政策創造能力の向上につなげる。

※フューチャーセッションとは、最適解のない複雑な問題を解決するため、組織や経験、専門など立場が異なる者がお互いの違いを乗り越え、対話により協調的なアクションを引き出す対話のプロセスであり、創造的なアイデアを創出するための新しい手法として、北欧の公的機関で始まり、日本でも企業の新製品、新事業の開発や地域のまちづくりの現場で広まりつつあります。

開催形式

最適解のない複雑な問題を解決するため、組織や経験、専門など立場が異なる職員がお互いの違いを乗り越え、対話により協調的なアクションを誘発することが可能となるフューチャーセッション形式により開催する。

テーマ

新しい三重づくりのための政策イノベーションを考える

アウトプット

これからの三重の政策創造のコンセプトと、そのコンセプトを実現するための仕組み

参加者

政策創造員（22名）、公衆職員（17名） 計39名

ゲストスピーカー

- 特定非営利活動法人愛伝舎 代表 坂本久海子 氏
- 有限会社二軒茶屋餅角屋本店 代表取締役社長 鈴木成宗 氏

ファシリテーター

- 株式会社フューチャーセッションズ 芝池玲奈 氏

セッションプログラム

内 容	狙 い
セッションプログラム1	
<ul style="list-style-type: none"> ● 塾長（知事）あいさつ ● ファシリテーター趣旨説明 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ セッション開催に対する知事の想いを共有する ☞ セッションの目的を共有する
<ul style="list-style-type: none"> ● ペア対話 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ 参加者同士の関係性を構築する
<ul style="list-style-type: none"> ● インスピレーショントーク 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ ゲスト2名の視点（地域コミュニティ、ビジネス）からみた世の中の新しい動きとその背景を共有することで、参加者の視野（知識）を広げる
セッションプログラム2	
<ul style="list-style-type: none"> ● フィッシュボウル（金魚鉢） 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ 行政、地域コミュニティ、ビジネスの3つの視点からテーマについての対話を行い、「これからの三重の政策創造のコンセプトと仕組み」を検討する上での参加者の視野を広げる
セッションプログラム3	
<ul style="list-style-type: none"> ● グループ対話 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ フィッシュボウルを通しての気づきや感じたことを他の参加者と共有することで、さらに気づきを広げる
<ul style="list-style-type: none"> ● コンセプトの立案とグルーピング 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ これまでのセッションで得た知識や情報、気づきをもとに、自分事で実現したい「これからの三重の政策創造のコンセプト」を検討する ☞ 参加者各人が考えたうえで、参加者9名のコンセプトをもとに、チームをつくる
セッションプログラム4	
<ul style="list-style-type: none"> ● プレーンストーミング 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ チームで決定した「これからの三重の政策創造のコンセプト」をベースに具体的な仕組みについてのアイデアを数多く出した上で投票により収束させる
<ul style="list-style-type: none"> ● クイックプロトタイピング 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ バックキャスト（未来のあるべき姿から、現状を考える）でチームの想いをカタチにする
<ul style="list-style-type: none"> ● 「未来新聞」発表 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ 各チームが考えたコンセプトと仕組みを共有する
<ul style="list-style-type: none"> ● 塾長講評 	

プロフィール

【ゲストスピーカー】

特定非営利活動法人愛伝舎 代表 いみづくみこ 坂木久海子 氏

1990年代にブラジルに家族で、4年半滞在。2002年より、三重県鈴鹿市の小学校で国際教室の講師として外国籍の子どもの教育に携わる。外国人を受け入れる仕組みの必要性を感じ2005年、NPO法人を設立。労働力として定住化している外国人住民に対して、通訳や生活ガイダンス、児童、生徒への教育支援、地域社会での多文化共生の推進などの支援を行い、生活者として暮らしていく仕組みづくりに取り組んでいる。

有限会社二軒茶屋餅角屋本店 代表取締役社長 すずきなりひさ 鈴木成宗 氏

創業 1575年 二軒茶屋餅二十一代目当主、有限会社二軒茶屋餅角屋本店代表取締役社長。1997年に地ビール伊勢角屋麦酒をつくりはじめ、地ビールレストラン開業。2000年ジャパンビアカップ金賞受賞、2003年オーストラリア国際ビールアワードにて金賞とベストオブクラスウィナーズを受賞。

【ファンライター】

株式会社フューチャーセッションズ しばいけのな 芝池玲奈 氏

大学卒業後、研修会社にてIT系/ビジネス系/新人研修/海外研修員向け研修など、幅広く講習会を実施するかわら、問題解決などの研修を開発。2013年6月より、日本におけるフューチャーセッションの第一人者である野村恭彦氏が設立した株式会社フューチャーセッションズに参画。松戸まちづくり会議の「経営会議」や札幌商店街活性化のためのフューチャーセッション、製造メーカーのグローバル人材育成や組織プロジェクトなどを担当。

第11回「若手・中堅職員養成塾」

フューチャーセッション概要

セッションプログラム1

① 巻頭（知事）あいさつ

- ※ これまでの塾や日頃の業務の中でたくさんの気づきがあったと思うが、気づいたことをそのままにして終わらせてはいけない。このフューチャーセッションにチャレンジして、ぜひ気づきをアクションにつなげてほしい。
- ※ 政策を築いていくうえで、「どういう未来を描きたいのか」、また「プロセスの中でどういう課題があるのか」ということを正しく認識して、自分がプレイヤーとして当事者意識を持つことが大事である。

② ファシリテーター趣旨説明

- ※ フューチャーセッションは複雑な問題に対して、多様なステークホルダーとダイアログして、新しい解を見つけ出してアクションしていくこと。
- ※ 未来は不確実で確実なものはない。現状から未来を予測すると、変わらない理由に捉われて、現状を打破しにくい。自分たちで自由に未来を描いて、実現するためにはどんな制約があるかを考え、アクションに移すという未来志向で考えていく。
- ※ 今ある決まり事を一度なくして、自分がどういう未来をつくりたいかを考えると、アイデアが広がる可能性が出てくる。

③ ペア対話



隣の人とペアになり、「名前、部署、今回のセッションで期待すること」について対話し、参加者同士の関係性を構築しました。

④ インスピレーショントーク

ゲスト2名が「三重県（あるいは自分の周辺）で起きている新しい動きとその背景」を話題提供し、参加者の視野（知識）を広げました。

坂本久澄子（特定非営利活動法人愛伝舎 代表）

- ① 日系人が入国管理法の改正により制限なく日本に来られるようになったのが1990年。最初はみんなが「出稼ぎ」という認識で、なし崩し的に受け入れていたが、それから約四半世紀が経って、きちんと受け入れる仕組みがないまま今に至っている。定住化が進み、子どもの教育や年金など、いろんなことが問題になってきた。
- ② 日本で外国人を受け入れる仕組みがないのは、外国人にとっても不幸で、私たちの社会にとってもリスクになる。
- ③ 愛伝舎を立ち上げたときは、外国人の受け入れに対して、ゴミ出しや騒音に気を付けるなど、日本のルールを守ってもらうといったレベルの支援だったが、だんだん日本の人口問題に関係してくると思うようになった。
- ④ 1990年から2010年には、三重県の人口は3%増えているが、子どもは4分の1に減っている。2050年になると、子どもが10万人を切り、日本人が絶滅危惧種になると言われている。
- ⑤ 鈴鹿市の外国人の子どもの数は700人を超えており増加している。外国の子どもたちは、日本の納税者、社会の担い手になるので、その子たちを支える政策をやってほしい。
- ⑥ 外国人の問題は、若年者や母子家庭、障がい者の方とも共通のものがあるので、特別に考えるのではなく、政策全体の中で考えてほしい。
- ⑦ 日本人が外国人と一緒にやるという覚悟や、マインドを持つことが大事だと思っている。



鈴木成宗（株式会社二軒茶屋餅角屋本店 代表取締役社長）

- ③ 1997年に地ビールの会社を立ち上げたが、その頃が地ビールの最初のピークだった。2000年頃に大逆風が吹き、当時、二百数十社あった地ビールメーカーが、多分全社赤字になったと思う。
- ④ 業界全体が同じような状況だったので、日々、イノベーションを起こすしかなかった。ぼんやり変化する未来を待っていたら、我々が消滅するしかない。
- ⑤ 他人と過去は変えられない。自分の未来は変えられる。どうせ未来は変化が必ず起きるから、こちらが先に変化を起こして未来をつくってしまえば、リーダーとして引っ張っていくことができるし、これほど楽なことはない。
- ⑥ 変化を起こす、イノベーションを起こす風土をどのように企業につくるかについて、私が思うのは、失敗を絶対に叱らないこと。思い切りバットを振りなさいと言っている。どれだけバットを振るか、そこから学んでもらうという文化をつくっていく。
- ⑦ 近くの他業種と遠くの同業種を見ることはヒントになる。少しでも遠くのビールメーカーを見に行くと必ずヒントがある。近くにあるものを見ても、あまり参考にならない。見に行くのは絶対遠くにする。そのためには時間がかかる。
- ⑧ ぜひ、そういう時間をつくっていただいて、自分の壁を壊すためにも遠くの世界を見ていただきたい。



セッションプログラム2

② フィッシュボウル（金魚鉢）



知事とゲストスピーカー2名（坂木氏、鈴木氏）、職員2名、ファシリテーター（芝池氏）が円の中心に座り、テーマについて対話を行いました。その他の参加者は円の外側に座って対話を聞き、視野を広げていきました。

- 知事） いつもいろんな政策議論をする中で、県内のリソースをもっと活用して、その人たちと連携するように言っている。自分たちだけで全部やろうと思わなくていい。多文化共生であれば坂本さん、農商工連携的なことであれば、鈴木さんに力を借りたらいいと思う。地域の人と接していると、いろんな分野で自分たちの力で、頑張っているという芽が出てきたと思うことがたくさんある。
- 職員） 農林水産部の取組では、フードイノベーションに力を入れている。企業や大学の先生方の知恵とか、いろんなものを組み合わせて農林水産物を素材にして新しい商品を作っているところが多い。農林水産物だけでできないことをいろんなネットワークをつないで、新しくできることを探している。
- 職員） 大阪のワークショップで一緒に学んだ人は、起業をされている方など、自分が行動を起こしている人が非常に多く、県の職員だけで話しているときとは、全然感覚が違う。いろんな生活、労働形態、環境があり、様々な人がいる。それが非常に刺激になる。新しいクリエイティブ、イノベーションは、県の職員だけでは限界がある。行政は失敗してはまずいという意見もあるが、フルスイングをする場、フリーな場というのが普段からあったらいいと思う。
- 芝池） フューチャーセッションは多様性を大事にしている。クリエイティブなイノベーションを起こすには、多様な知識とさまざまな人のアイデアを持ち寄った方がいい。同じタイプの5人が集まるよりは、い

ろんな人が集まって、振れ幅の誤差があった方が、最終的には素晴らしいアイデアになる。

鈴木) セクショナリズムになることがあるが、いろんなメールを全員に配信して、他の知識も目に入ってくるようにしている。そういうシステムもすごく大事だと思う。

一番尖った情報を持っているのは、一番フロントにいる人であり、パート職員と話すことが多い。

坂本) 三重県庁の職員は、三重県出身の割合がかなり高いと思っている。学校も同じ高校とか同じグループが多いように思う。これからのいろんな問題を解決する能力というのは、いろんな視点が重要である。外国人は自分の意見を言う場がない。そういう人たちが声を出せる場があれば、日本の社会にとってもプラスになるので、彼らの声を届ける場をつくりたいと思う。

知事) みえ県民力ビジョンのコンセプトとして、協創、アクティブ・シチズン、県民力を言っていて、政策の創造の中では、県民力とか協創とかの要素が入っている方がいい。まさに今のフューチャーセッションでやっていることそのものだと思っている。

職員) 行政の役割は、現場の人がどうやったら働きやすいか、実現できるかというのを応援するようなポジションに変わってきている。

職員) 職員の能力、スキルアップは、一人ひとりの専門性だったり、個性、特性をいかに引き出すかというのが、大事だと思う。それは年齢ではない。今は年功序列になっているので、そこを変えて、普段からフリーなディスカッションができればいいと思っている。

芝池) 複雑な問題が増えてきた中で、多様な人々が持っているものをうまく引き出し、つなげることが必要だが、単につなげるだけでは駄目だ。リーダーシップとして大きな未来のビジョンを示す必要がある。それと同時に、ビジョンを実現するために、多様な人々がそれぞれリーダーシップを持って参加すること、参加型リーダーシップも重要になってきている。

- 知事) 神戸製鋼の平尾さんは、キャプテンシップという言葉で表現していたが、ラグビーの中で一番しんどい練習がタックルの練習でみんな嫌がるが、キャプテンがやろうと言うと変わる。こういうキャプテンシップみだいなのが大事だと言っている。
- 鈴木) 民間企業は意思決定を早くしてどんどん仕事を回さないと時代が先に進んでしまう。また、アイデアを出したり、情報を収集する部分と、意思決定をする機能を組織の中で明確に分けないと組織がうまく回らない。わが社では、アイデアはどんどん出してくれ、何を言っても構わないと言っている。一方で、意思決定は私が全責任を持ってやる。フューチャーセッションのようなアイデアを出す段階では拡散思考で何を言っても良いが、形が見えたら、明確な意思決定をして、ベクトルを合わせて、ガツンといくことが大事だ。
- 芝池) フューチャーセッションでも誰が意思決定するかをかなり意識している。
セッションで出たアイデアを実行するには投資が必要で、意思決定者のコミットメントがいる。また、意思決定の後、アイデアを実行する、ここにいるみなさんのような主体のコミットメントも大事だと考えている。
- 鈴木) コミットメントでいうと、わが社ではやったことすべての結果は経営者である私が取るが、社員には実行責任を問うている。コミットメントの仕方は立場によって異なる。このことを組織の中で明確にすることはかなり大事だと思う。

【インスピレーショントーク、フィッシュポウルから得られたキーワード】

協創	脱タテ社会
多様な人と組む	色んなネットワークを生かす
県民力の結集	アクティブ・シチズン
文化の違う人とのコミュニケーション	他業種とのイノベーション
問題解決能力→多様性から	声を出せる場
現場を応援	フルスイングできる場
仕組みからの脱却	近くの他業種、遠くの間業種
企業連携	県内リソースの活用
現場目線	フードイノベーション
農商工連携	県庁外の人と出会う
現場の人とのコミュニケーション	誰かに頑張ってもらう
学びの仲間	日常からのフリーディスカッション
発案しやすい空気づくり	アイデアをどんどん出す
知識の共有	情報を共有できるシステム
全員にメーリングリスト	早い意思決定
意思決定の明確化	リーダーシップの変化
参加型リーダーシップ	キャプテンシップ
キャプテンも一緒にタックル	結果責任、実行責任
拡散→決定、ステージを分ける	

セッションプログラム3

④ グループ対話



さらに気づきを広げるために、4人組になって「フィッシュボウルを通しての気づきや感じたこと」について他の参加者と対話を行いました。

⑤ コンセプトの立案とグループピング



これまでのセッションで得た知識や情報、気づきをもとに、「これからの三重の政策創造のコンセプト」を参加者各人で考えました。参加者の中から9名がみんなと考えたいコンセプトを発表し、他の参加者は発表があったコンセプトから共感できるものを選択して、チームを結成しました。

提案された9つのコンセプト

- A) 多様性のある環境とするため、まず個人が能力を発揮し、認められる環境づくり
- B) 部署間の縦割りをなくし、誰にでも業務の相談ができて、甘えられるシステムづくり
- C) 提案したアイデアに、周りの人がプラスしてアイデアを出し合っている職場づくり
- D) 政策をまずやってみて、その後いろいろな価値観を持った人に評価してもらい政策を磨き上げていく仕組みづくり

- E) 人「交」の密度を高めて人口減少社会に挑む、多様な主体のフューチャーセッションで、地域で取り組む政策創造
- F) いろんな専門の人が集まって、それぞれの課題や政策などを組み合わせられる場と人づくり
- G) まち歩きで住民の悩みやニーズを聞いて分かったことを庁内で共有し、職員が積極的に助けたい雰囲気づくり
- H) 現場の声を拾うため、地域機関で仕事をする職員と地域の交流活発化
- I) 職員の危機感をあおり、イノベーションを起こす政策創造



(考えたいコンセプトの席へ移動)



セッションプログラム4

③ プレーンストーミング



コンセプトを実現するためのアイデアをどのチームが先に30個出せるか競いながら考え出しました。



出されたアイデアの中から、チームのそれぞれのメンバーが良いと思うものに1人5票で投票しました。

④ クイックプロトタイピング

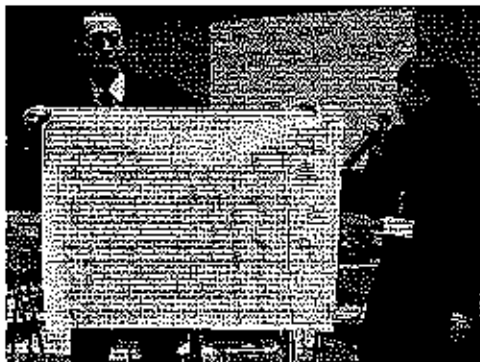
「これからの三重の政策創造のコンセプト」を実現するための仕組みが実現した未来を「未来新聞」として描きました。

⑤ 「未来新聞」発表

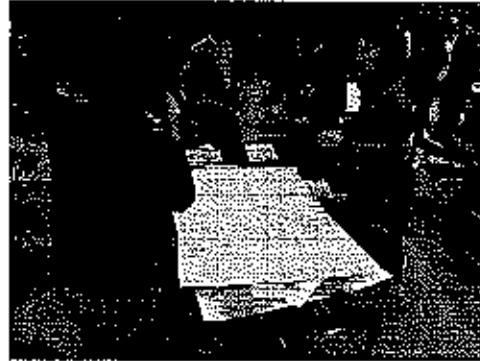
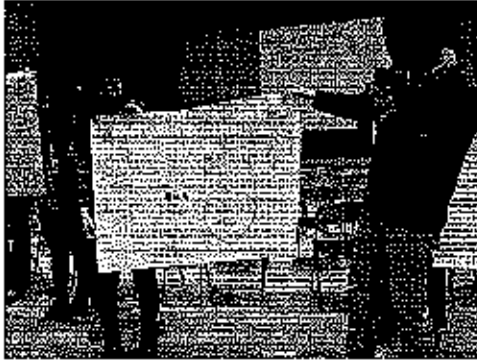
各チームが考えた「未来新聞」を発表し、コンセプトと仕組みを共有しました。

A) 知事辞職か!?

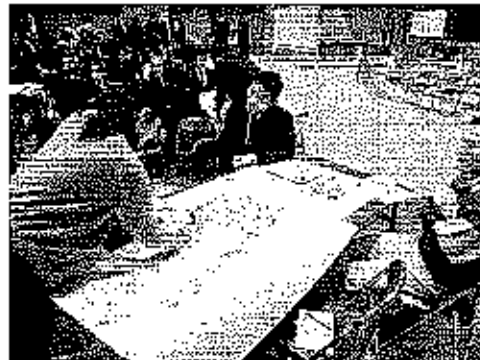
～個人の能力が発揮できる環境づくり～



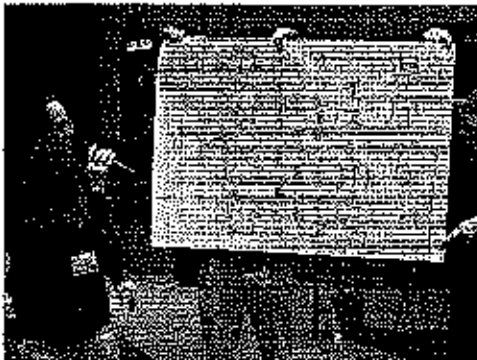
B) 県庁ファミリー～知らない人はもういない～
～（縦割りでない）周囲に甘えられるシステムづくり～



C) 妄想が現実に！
～アイデア出しに乗っかれる職場づくり、仲間づくり～



D) 県庁からイスが消えた！？
～やりました、やってみて、どうでしょう主義（まずやってみた上で多様な
方から評価を受ける）～



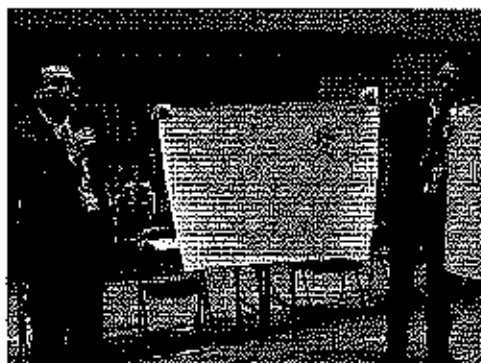
E) フューチャーセッションで人『交』倍増！！

～人交の密度を高めて人口減少社会に挑む、多様な主体のフューチャーセッションで地域で取り組む政策創造～



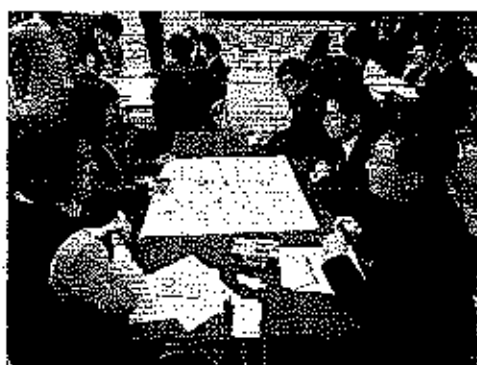
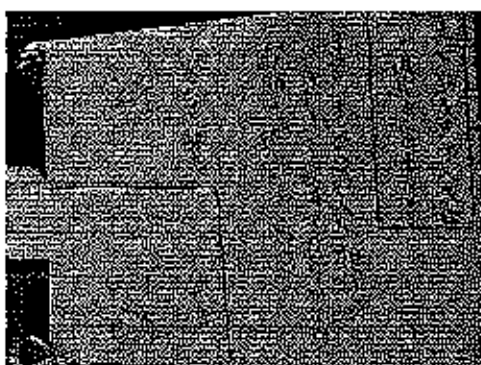
F) 行政初！愛のある政策実現

～課題、政策、人を「組み合わせる」ための仕組みづくり～

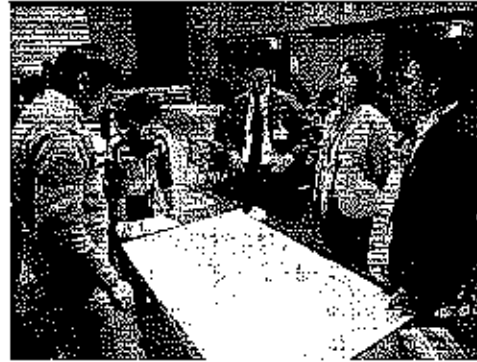
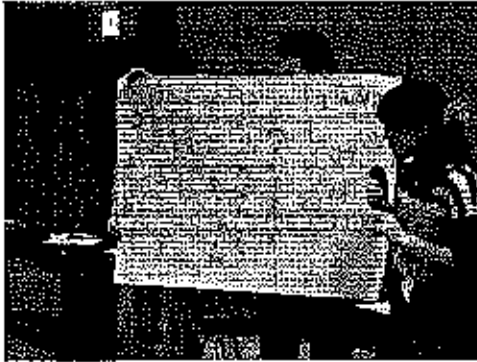


G) まちあるきで人気者＝県庁さんが来た＝

～まち歩きによる県民の悩み事発見とお助けボードによる助け合い～



ト) 【南部発】画期的過疎対策 はじまりは羊から
～地方勤務を活用した地域振興～



リ) 全国初 え！？ボーナス0（ゼロ）？
～イノベーションを起こすための危機感の醸成～



☑ 感想・総評

今回、初めての試みであったことから、まだ遠慮していた部分もあったと思う。フューチャーセッションの手法や発想の仕方など、学んだことをぜひ職場で生かして、『未来新聞』に書いてあるようなことが実現できるように頑張ってもらいたい。

○ 第11回若手・中堅職員養成塾を終えて

【成果と課題】

今回のフューチャーセッションを改めて振り返ると、「これからの三重の政策創造のために大切な視点（コンセプト）」を参加者全員で考え、共有することができたことは大きな成果でした。今後は、これらの視点を意識して、政策創造員会議をはじめとする、政策創造のための具体的な仕組みづくりに生かしていきます。

また、独創的なアイデアを生み出す新しいワークショップ手法の一つであるフューチャーセッションを実際に体験し学んだことで、今後の様々な業務での活用への道を拓いたことも成果でした。多様なステークホルダーとの関係性を築きながら、「未来志向」と「自分事」で複雑な問題の解決策を探るフューチャーセッションが様々な現場で活用されるよう、来年度も引き続きフューチャーセッションを実施していきます。

一方で、これからの三重の政策創造のコンセプトを取りまとめるところまでは狙いどおりでしたが、「コンセプトを実現するための仕組みづくり」については、各チームともブレインストーミングで出たアイデアを、具体的な仕組みにまで仕上げることができませんでした。後半、十分な時間が取れなかったこともあり、どのような視点でアイデアを出す必要があるかを参加者と共有することができなかったことが反省点として挙げられます。今後の実施にあたっては、十分な時間を確保し、各セッションにおける一つ一つの取組の意味を参加者と共有できるよう工夫していきます。

張市長積極的提案を

5/11(土)で

県職員 養成塾 破綻後の行政運営基に講演

職員政策形成能力向上「職員養成塾」(議長・鈴木 養成塾)の「若手・中堅」(英敏知事)の第七回講義が



職員政策形成能力向上「職員養成塾」(議長・鈴木 養成塾)の「若手・中堅」(英敏知事)の第七回講義が

十日、県庁講堂であった。全国唯一の財政再生団体、北海道夕張市の鈴木直道市長が講演。鈴木市長は「皆さんは経験や知識があり、とんでもないことを受け入れてくれる知事もいる」と語り、積極的に提案すべきと呼び掛けた。

同市は平成十九年三月に財政破綻した。鈴木市長は東京都職員だった二十年一月から二年余、同市へ入向。二十三年四月に市長に就任した。

鈴木市長は、同市の行政サービスを維持するためには「ゼロ円で五百円の物を買わないといけない」と例えた。一方、市費で負担せずハワードマンを作ったことに触れ、「意外とできることがある。某国のメニューがなくても、やれることはある」と指摘。「新しい提案を出してほしい」と語った。

講演後は、鈴木知事と共

に職員との意見交換した。職員からは「住民が主体的に取り組むための仕掛けはあるか」との疑問が上がった。鈴木市長は、財政破綻で中断した映画祭を市民が復活させたを紹介し、「誰かが追いつかれないと、何かやらなきゃ」となる。その前年、住居と三重を守ったというように機運をつくってほしい」と語った。

子育て両親へ支援を

県若手職員 宋医師が必要性訴え

25.9.10
14時新報



鈴木英敏知事が遊長を務める県の「若手・中堅職員養成塾」の第九回講義が九し、子育て中の両親への支

職員の真向に答える宋氏
(左)川崎講堂

援や正しい性教育の必要性を訴えた。

宋氏は川崎医科大学の講師を務めながら、テレビなどにも出演。自身にも一歳の子どもがいる。この日は「産婦人科医として伝えたいこと」と正しい知識の啓発と座談会やすい機嫌づくりに「子育て」と題して話した。

性教育について、宋氏は「小学生くらいから男女の性を教えてあげた方がいい」「否定し過ぎず、ありのままを伝えた方がいい」などと指摘。仕事と育児の両立では、自身の経験も交えながら「子育てをする父母が心な余裕を持って、『子どもがかわい』という心で集中できることが大切」と主張。子育てしやすい社会づくりや、男性の育児休暇取得を進めるべきだとした。

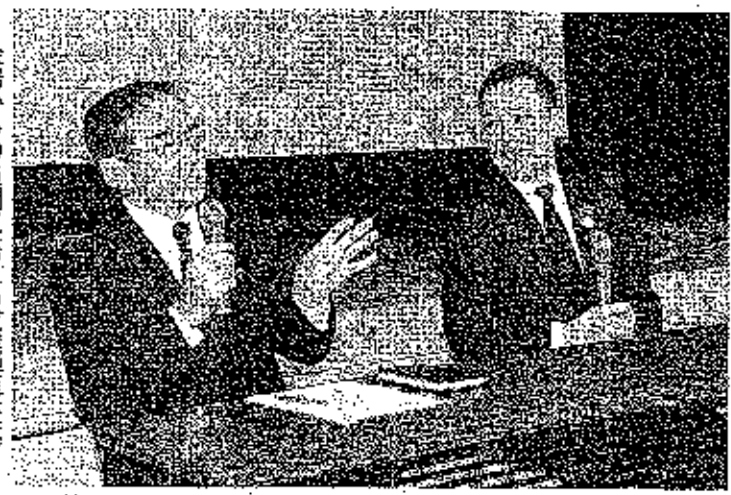
産後ケアも重要だとし、「両親を支援して、子どもへの愛情を注がせる余裕を与えることが、子育ての自己満足感や自信につながる」と語った。

講演後は職員と懇話会を行った。養成塾は職員の政策形成能力を高めるため、昨年度から開くことになる。

人を動かす仕掛けを

生みの親の熊本県職員 成尾さんが講演

「くまモン」は話題性で成功



会場からの質問に答える成尾課長(左) 熊本県職員

県庁の若手・中堅職員成尾(副)課長・鈴木英敏知事)が十二日、県庁講堂であり、約百二十人が参加した。人気ゆるキャラ「くまモン」の生みの親である熊本県くまもとブランド推進課の成尾雅典課長が「ゆるキャラからゆるキャラへ」をテーマに講演し、「人を動かすプラスアルファの仕掛けを考へることが大事」と述べた。十四日。

成尾課長は「ほかのゆるキャラとの最大の違いはサプライズ」とし、神出鬼没作戦などで話題性をつくったと説明。限られた予算で最大の効果を出すためには▽初めて▽唯一▽トップセールスリーの三つがキーワードとした。

その上で、国内外の雑誌や新聞に取り上げられるようになったほか、海外の著名ブランドとのコラボ商品も発売されるようになり、商標使用許可の経済効果は、平成二十三年の二十五億円から昨年は十倍以上の二百九十三億円になったと紹介した。

参加者との意見交換では「地元では幼稚園や学校の運動会に行ったりしている。海外にも行っているが、地元なくしてくまモンはない」とし、今後の目標については「世界中でくまモンと言えは熊本」とイメージしてもらえようになりたい」と語った。

会場では、くまモンからのビデオレターも上映された。鈴木知事によると、観光キャンペーンのイベントで、来年三月にくまモンが県を訪れるという。

2/15 朝日

三重県に学ぶ



くまモン

に学ぶ

熊本県の人気ゆるキャラ「くまモン」を育てた同県くまもとブランド推進課の成尾雅司課長が11日夜、三重県庁の若手・中堅職員約170人に講演した。くまモンを成功させた理由として、「サプライズを続けること」と話した。

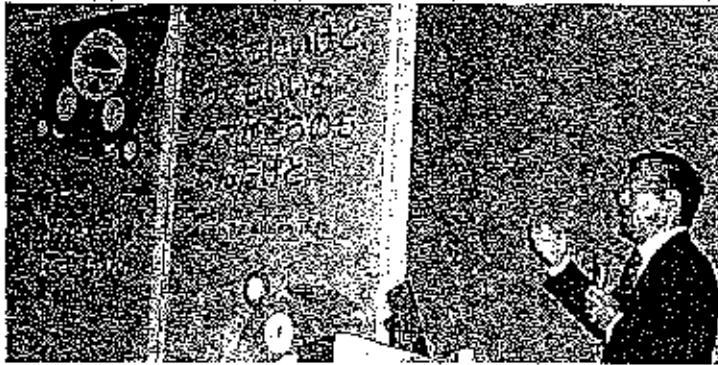
成尾課長はまず、くまモンが誕生したきっかけは九州新幹線。2010年秋ごろ、新大阪―鹿児島中央間の直通運転ばかりが地元では話題になり、「ほじけたぞを」といふと他県には勝てない」と感じたといふ。

県庁で熊本県の担当課長講演

そこで、狙いを大阪に絞り、道頓堀にくまモンを出渡させた。11年1月には吉木新喜劇は知事とともに出陣させたりするなどした。ツイッターやブログで話題になるように仕掛けたといふ。その年の11月には「ゆるキャラグランプリ」で優勝し、知名度が一気に上がった。

成尾課長は「これからどんなサプライズをしていくかで頭がいっぱい。50年、100年後のキャラクターを目指したい」。来年3月には観光PRのため、三重県にやってくることも明らかにした。

成功の鍵は「サプライズ」

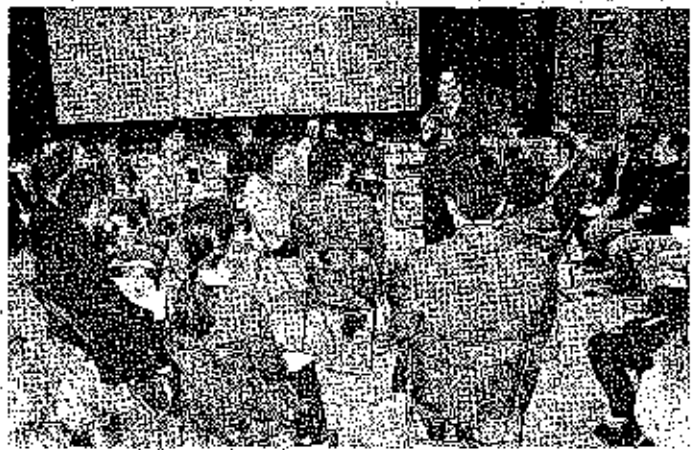


くまモンヒストリーを語る熊本県の成尾雅司課長

②「新しい三重」へ議論

1/30 養成塾で若手県職員ら

県庁の若手・中堅職員等に意見を交わした。成塾(塾長・鈴木英敬知事)は二十九日、県庁講堂で開いた。各部署の課長補佐級の職員約四十人が出席し、「新しい三重づくりのための政策」をテーマに意見を交わした。



「新しい三重」の議論を求め、職員らに意見を交わした。十一回目の今回は対話を重視するた

め、これまでの講演形式から円形になって議論するフューチャーセッション形式に変更した。NPO「愛伝舎」(鈴鹿市)の坂本久海子代表と、職員養成塾であいさつする鈴木知事、県庁講堂で

三軒茶屋餅角屋本店(伊勢市)の鈴木成宗社長をゲストに招いた。

平成25年度「若手・中堅職員養成塾」開催実績

単位：人

		第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	合計
講師		鈴木直道 (夕張市長)	青野慶久 (サイボウズ株式会社代表取締役社長)	宋美玄 (川崎医科大学講師、産婦人科医)	成尾雅貴 (熊本県くまもとブランド推進課長)	【ゲストスピーカー】 坂本久海子(特定非営利活動法人愛伝舎) 鈴木成繁(有限会社二軒茶屋餅角屋本店) 【ファシリテーター】 芝池玲奈(株式会社フューチャーセッションズ)	
テーマ		やらなきゃゼロ!	子育ては未来と市場を創造する仕事～ワークスタイルの多様化とIT～	女性産婦人科医として伝えたいこと～正しい知識の啓発と産み育てやすい環境づくりについて～	ゆるキャラから売るキャラへ～くまモンにみるブランド戦略～	「新しい三重づくりのための政策イノベーションを考える」	
A 政策創造員		22	25	29	25	22	123
防災対策部	本庁	1	1	1	0	0	3
	地域機関	0	0	0	0	0	0
	計	1	1	1	0	0	3
戦略企画部	本庁	3	1	0	2	0	6
	地域機関	0	0	0	0	0	0
	計	3	1	0	2	0	6
総務部	本庁	9	8	5	10	1	33
	地域機関	4	4	3	2	0	13
	計	13	12	8	12	1	46
健康福祉部	本庁	9	7	12	5	1	34
	地域機関	1	3	10	2	2	18
	計	10	10	22	7	3	52
環境生活部	本庁	2	1	3	5	1	12
	地域機関	0	1	2	0	0	3
	計	2	2	5	5	1	15
地域連携部	本庁	6	4	4	4	2	20
	地域機関	4	0	5	4	0	13
	計	10	4	9	8	2	33
農林水産部	本庁	6	11	4	8	0	29
	地域機関	3	4	4	4	2	17
	計	9	15	8	12	2	46
雇用経済部	本庁	5	6	5	19	2	37
	地域機関	0	0	1	0	0	1
	計	5	6	6	19	2	38
県土整備部	本庁	5	4	3	14	2	28
	地域機関	2	4	4	0	1	11
	計	7	8	7	14	3	39
出納局	本庁	2	1	2	1	0	6
	地域機関	0	0	0	0	0	0
	計	2	1	2	1	0	6
企業庁	本庁	0	0	0	1	0	1
	地域機関	1	0	2	0	0	3
	計	1	0	2	1	0	4
病院事業庁	本庁	0	1	0	0	0	1
	地域機関	1	0	0	0	0	1
	計	1	1	0	0	0	2
教育委員会	本庁	4	0	5	7	2	18
	地域機関	5	2	4	5	1	17
	計	9	2	9	12	3	35
その他委員会等	本庁	0	1	0	6	0	7
	地域機関	0	0	0	0	0	0
	計	0	1	0	6	0	7
計	本庁	52	46	44	82	11	235
	地域機関	21	18	35	17	6	97
	計	73	64	79	99	17	332
C 戦略企画部関係者		6	11	13	10	8	48
合計(A+B+C)		101	100	121	134	47	503
主事・技師級(再掲)		35	28	47	46	13	169
係長級(再掲)		38	37	32	35	14	156
補佐級(再掲)		26	28	33	46	16	149
管理職(再掲)		2	7	9	5	4	27
その他(再掲)		0	0	0	2	0	2
計		101	100	121	134	47	503

平成25年度 若手・中堅職員養成塾

平成26年3月

三重県戦略企画部企画課

〒514-8570 三重県津市吹明町13番地

TEL: 059-224-2025

FAX: 059-224-2069

E-mail: kikakuk@pref.mie.jp